



2017年 夏目漱石生誕150周年に向けて  
新宿区夏目漱石記念施設整備  
プロジェクトVol.1

入場  
無料

# 夏目漱石と 「現代を生きる」 ともに創ろう、 〔仮〕「漱石山房」記念館

～姜 尚中氏講演とシンポジウム～



新宿区は、文豪・夏目漱石が生まれ育ち、その生涯を閉じたまちです。区では、漱石生誕150周年にあたる平成29年(2017)2月の開館をめざして、(仮称)「漱石山房」記念館を整備します。生誕150周年に向けた「漱石プロジェクト」の第1弾イベントとして、姜尚中氏による講演会と記念館整備をテーマとしたシンポジウムを開催します。



姜尚中氏



## 講演 「漱石と現代」

第1部

講師：姜 尚中 (政治学者・聖学院大学全学教授)



## シンポジウム 「ともに創ろう、 〔仮〕「漱石山房」記念館」

第2部

パネリスト：半藤一利 (作家)、  
半藤末利子 (エッセイスト・夏目漱石孫)  
姜 尚中、中島国彦 (早稲田大学文学学術院教授)  
中山弘子 (新宿区長)

コーディネーター：牧村健一郎 (朝日新聞記者)

### 夏目漱石 記念施設整備基金

をスタートします

新宿区では、記念館の整備に多くの方々にご参画いただきたいと考え、「夏目漱石記念施設整備基金」を設置し、7月1日から寄付の募集を開始します。いただいたご寄付は、(仮称)「漱石山房」記念館の建設と資料購入に活用いたします。皆さまのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



日時

平成25年 **7月14日** (日)

開演 14:00 (開場 13:30)

申込方法

催し物名、郵便番号、住所、氏名(フリガナ)、電話番号、希望人数(応募者を含め最大5名まで)を記入し、はがきまたはFAXで下記までお送り下さい。 ※応募者多数の場合は抽選。  
**締め切り：平成25年6月24日(必着)**

問合せ先・申込先

新宿区地域文化部文化観光課文化資源係  
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 本庁舎1階  
電話：03(5273)3563 FAX：03(3209)1500

会場

早稲田大学  
大隈記念講堂大講堂

新宿区西早稲田1-6-1







第1部 講演 「漱石と現代」



©今村拓馬

講師 <sup>カン サンジュン</sup> 姜尚中 Kang Sang-jung (政治学者・聖学院大学全学教授)

昭和25年(1950)、熊本県熊本市生まれ。早稲田大学大学院政治学専攻博士課程修了。旧西ドイツ、エアランゲン大学に留学の後、国際基督教大学助教授・準教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授などを経て、現在、聖学院大学全学教授。専攻は政治学、政治思想史。テレビ・新聞・雑誌などで幅広く活躍。主な著書に『オリエンタリズムの彼方へー近代文化批判』『マックス・ウェーバーと近代』『ナショナリズムの克服』『姜尚中の政治学入門』『日朝関係の克服』『在日』『ニッポン・サバイバル』『愛国の作法』『悩む力』『母〜オモニ』『心』など。

第2部 シンポジウム 「ともに創ろう、**『漱石山房』** 記念館」

パネリスト



半藤 一利 (作家)

昭和5年(1930)東京都生まれ。東京大学文学部卒。「週刊文春」「文藝春秋」編集長、専務取締役、同社顧問などを歴任。『日本のいちばん長い日』『日露戦争史』『幕末史』など著書多数。平成5年(1993)『漱石先生ぞな、もし』で第12回新田次郎文学賞、平成22年(2010)『ノモンハンの夏』で第7回山本七平賞、『昭和史』で毎日出版文化賞特別賞をそれぞれ受賞。



半藤 末利子 (エッセイスト)

昭和10年(1935)東京都生まれ。上智大学比較文化科卒。夏目漱石門下の作家松岡譲と漱石の長女筆子の四女。著書に『夏目家の糠みそ』『漱石夫人は古い好き』『夏目家の福猫』『漱石の長襦袢』など。



中島 国彦 (早稲田大学文学学術院教授)

昭和21年(1946)東京都生まれ。早稲田大学文学部卒、同大学院博士課程修了。同大学文学部専任講師、助教授を経て現職。文学博士。平成7年(1995)『近代文学にみる感受性』でやまなし文学賞受賞。共著に『夏目漱石の手紙』。



中山 弘子 (新宿区長)

昭和20年(1945)台湾生まれ。日本女子大学文学部卒。東京都に就職し、生活文化局消費者部長、人事委員会事務局長、監査事務局長などを歴任。平成14年11月新宿区長に就任し、現在三期目。「漱石山房の復元に向けた取組み」をマニフェストに掲げて推進している。

コーディネーター



牧村 健一郎 (朝日新聞社記者)

昭和26年(1951)神奈川県生まれ。早稲田大学政経学部卒。朝日新聞校閲部、アエラ編集部、学芸部(現文化くらし報道部)などを経て、現在 be 編集部。著書に『新聞記者夏目漱石』『旅する漱石先生』など。

東京フィルハーモニー交響楽団  
ソロ・コンサートマスターによる演奏もあります。



荒井 英治 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学に学ぶ。新星日本交響楽団、東京交響楽団コンサートマスター等を経て、現在は東京フィルハーモニー交響楽団のソロ・コンサートマスター。モルゴア・クアルテットメンバー。独奏者としても、パッハからショスタコヴィチ、リゲティに至る数多くの協奏曲を著名指揮者と共演する。東京音楽大学教授。



奥村 恵美 (ピアノ)

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。第1回ブルクハルト国際音楽コンクール奨励賞、第11回ベトロフピアノコンクール大学生・一般部門第4位。日本テレビ24時間TVチャリティコンサート、埼玉医科大学国際医療センターでのソロ・コンサート等、ボランティア活動も行っている。めぐみピアノ教室上尾校・三芳校を主宰。日本演奏連盟会員。

漱石を発信する活気と賑わいのある記念館に

記念館内に書斎・客間・ペランダ式回廊など「漱石山房」の一部を再現

常設展のほか、企画展や講座・イベントを開催し、漱石やその文学の世界を紹介

漱石に関する本を読みながら、ゆったりと過ごせる図書室やカフェを設置



漱石山房の再現展示イメージの一例

夏目漱石と新宿区

夏目漱石は、慶応3年(1867)2月に牛込馬場下横町(現在の喜久井町)で生まれ、大正5年(1916)12月に早稲田南町で亡くなりました。

江戸時代、牛込周辺の町方名主だった夏目家。江戸が東京になったころ、漱石の父・直克が、夏目家の家紋「井桁に菊」にちなんで名付けた町名が「喜久井町」です。自宅前の坂は「夏目坂」と命名され、今でもその名が残っています。また、漱石の作品には『それから』の神楽坂、『彼岸過迄』の矢来町など、新宿の景色が頻繁に登場します。

漱石は晩年の9年間を「漱石山房」と呼ばれた早稲田南町の家で暮らしました。この家に転居したころから文筆業に専念し始め、この地で『三四郎』『こころ』『道草』など数々の代表作を執筆しました。客間では週1回「木曜会」と呼ばれる文学サロンが開催され、漱石を慕う若い文学者たちの集いの場にもなっていました。

建物は昭和20年(1945)の空襲で焼失しましたが、現在は、敷地の一部が区立漱石公園となっています。

